

令和元年度 事業報告書



社会福祉法人

素心会

目次

1 法人	1
2 素心学院	10
3 素心デイセンター	12
4 地域支援センターそしん	14

1 法人

(1) 法人の主な活動状況

令和元年度は、三拠点における利用者支援の充実、素心デイセンター災害復旧工事、定款等の整備に取り組んだ。

素心学院では積極的に5人の新規利用者を受け入れたが、残念ながら7人の利用者が老化による疾病等のため退所した。地域支援センターそしんは、児童発達支援事業及び生活介護事業において、新規利用児者の受入れに成果を上げた。素心デイセンターは就労継続支援 B 型事業の再整備計画を整備し、次年度に着手することとなった。

素心デイセンター災害復旧工事は、令和2年5月に着工となり同9月に完成した。裏山斜面に対する安全対策とアスファルト舗装及び芝生エリア新設によるグラウンド整備が完了した。

定款等の整備は、登記簿との相違修正のための定款変更、定款細則の制定、法改正による就業規則（ハラスメントの禁止）と苦情解決規程及び処遇改善手当の改正を実施した。

また、同時に中期計画に基づく取り組みとして、働き方改革への対応、職員研修の充実、修繕計画の作成、会計処理の委託、法人パンフレットの改訂等を実施した。

令和2年3月に入り、新型コロナウイルス感染症の拡大が世界的に重大かつ深刻な事態となった。厚生労働省等の指導による「新型インフルエンザ等発生時における業務継続」に基づく感染防止対策を強化した。

(2) 素心デイセンター災害復旧(擁壁・グラウンド等改修)工事報告

ア災害状況

平成30年3月9日(金曜日)早朝、デイセンター北側斜面(神奈川県中郡大磯町虫窪23番地(素心会所有))が30mにわたり崩落した。その土砂の重みにより擁壁に亀裂が入り押し出され、土砂の一部がグラウンドに流れ込んだ。

イ原因

- ①平成30年3月9日未明の大雨(100mm超)
- ②経年劣化による北側斜面吹付コンクリートの浸食
- ③北側擁壁雨水排水の詰まり
- ④グラウンドの雨水排水処理(特に素心学院移転後、状況が変化していた)

ウ被害

- ①北側斜面崩落
- ②北側擁壁の亀裂、ずれ
- ③送迎用マイクロバス1台の後部ガラス破損(落石による)
- ④グラウンドへの土砂流出
- ⑤人的被害及び建物被害はない

エ設計事務所

早期の復旧を図るためには、調査、行政手続き等に着手する必要がある、実績のある黒部設計事務所に本工事に関する調査、設計、行政手続き、工事監理等を依頼した。

才復旧工事の概要

①北側擁壁及び斜面

調査結果により、最も合理的かつ有効である既存の擁壁の外側に新たな擁壁を造り補強する方法をとる。斜面は、コンクリートの吹付とする。

②グラウンド

雨水排水溝の整備、車両通行・駐車エリアの舗装、活動エリアの芝生化を図る。

③その他

高く伸びすぎたヒマラヤスギの伐採と剪定（倒木防止対策）

カ復旧工事対応

平成 30 年度対応

①安全対策（立ち入り禁止エリア・建物の設定）

②測量調査

③斜面の地質調査（ボーリング調査）

④北側擁壁周辺現況平面図の作成

⑤グラウンド現況平面図の作成

令和元年度対応

⑥工事業者選定入札

令和元年 5 月 20 日（月）

落札者（施行者）増田工業株式会社

工事費 42,500,000 円（税込額 45,900,000 円）

契 約令和元年 5 月 10 日

⑦着工

令和元年 5 月 20 日

⑧完成引き渡し

令和元年 9 月 30 日

(3) 重点事項への取り組み

重点課題		実施（完了）事項	継続 終了
人材・ 組織風土	①多様な働き方の研究等	①非常勤職員の勤務時間等弾力的対応	継続
	②働き方改革への対応	②法の示す目標値クリア	継続
	③職員研修の見直し	③基幹研修、主幹・課長研修、伴走研修	継続
	④常勤職員の育成	④キャリアパス基準案の作成	継続
資金・財務	①予算管理の強化	②会計処理を会計事務所に委託	継続
	③処遇改善手当の見直し	③特定加算の導入	継続
土地・建物・ 設備等	①土砂災害の早期復旧	①擁壁工事	終了
	②修繕及び業務等省力化計画の作成	②修繕計画の作成	継続

	各拠点による取組		
	サービスの質	①入所施設在り方検討会設置 ②グループホーム在り方検討設置 ③就労継続支援B型事業在り方検討設置	
情報・ネットワーク	①法人資源及び後援会組織を活用した地域つながりの場づくり ②共感を生み出す広報活動	①法人研修会に地域住民等を勧誘 地域への施設設備貸し出し 後援会パンフレットの改訂 ②法人パンフレットの改訂	継続 継続
社会福祉充実計画への取り組み(具体的な地域貢献事業への取り組み)		非該当	継続

(4) 委員会活動状況

名称	開催回数	主な活動状況
安全推進委員会 (利用者の安全に関する規則)	8	<p>1 利用者の転倒・転落・傷害・誤嚥飲・器物破損・加害行為・交通事故・行方不明等、事故の予防ならびに円滑かつ的確な事後処理を目的に活動しており、「ヒヤリ・ハット報告書」「事故報告書」等の作成・集計・分析を通し、情報を職員間で共有・注意喚起し、事故の再発防止に努めている。</p> <p>2 各種法人行事におけるリスクマネジメントの実施</p> <p>3 事故報告集計資料の様式見直しおよび作成・報告 事故件数 学院21件 デイセンター10件 支援センター7件 計38件</p> <p>4 日本知的障害者施設協会「リスクマネージャー養成研修」への職員派遣</p> <p>5 「ヒヤリ・ハット報告書」の集計・対応 報告件数 学院51件 デイセンター18件 支援センター2件 計71件</p> <p>6 見守りカメラ(学院)・ドライブレコーダー事故記録録映像の検証</p> <p>7 公用車に「ドライブレコーダー使用中」「送迎中」のステッカー提案・設置</p>
広報委員会	11	<p>素心会が運営する事業全体に関する情報について、関係者・関係各機関をはじめ広く社会全般に提供し、障害者と福祉現場への理解と協力を求めることを目的に活動している。</p> <p>1 広報誌「そしん」編集、発行(800部) 63号 平成31年4月発行 64号 令和元年7月発行</p>

		<p>65号 令和元年10月発行</p> <p>66号 令和2年3月発行</p> <p>2 素心会ホームページ</p> <p>・トピックスの随時更新</p> <p>素心学院寿司ランチ・納涼祭開催・心創展の案内・素心学院秋の芸術祭開催・素心デイセンター災害復旧工事完了のお知らせなど。</p> <p>・令和元年度より保守業務を行う業者が変更した。</p>																																		
<p>研修委員会 (素心会研修規則)</p>	10	<p>1 職員の資質、専門性の向上を図るため、研修要項に基づき次の研修を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修の種類</th> <th>対象職種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎研修</td> <td>全職種1年目の職員</td> </tr> <tr> <td>伴走研修</td> <td>常勤新採用職員</td> </tr> <tr> <td>実践研修</td> <td>全支援員</td> </tr> <tr> <td>基幹研修</td> <td>常勤職員対象</td> </tr> <tr> <td>外部研修(事業所ごと)</td> <td>全職種</td> </tr> <tr> <td>課題別検討会</td> <td>支援員7人(ダウン症への支援に関する研究)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 当年度の研修</p> <p>(1) 基礎研修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害の特性と知的障害福祉の歴史</td> <td>令和元年5月20日</td> </tr> <tr> <td>倫理・人権</td> <td>令和元年6月18日</td> </tr> <tr> <td>記録・接遇</td> <td>令和元年7月16日</td> </tr> <tr> <td>介護技術</td> <td>令和元年9月2日</td> </tr> <tr> <td>感染症とてんかん</td> <td>令和元年10月2日</td> </tr> <tr> <td>自閉症</td> <td>令和元年11月5日</td> </tr> <tr> <td>ダウン症・高齢化</td> <td>令和2年1月16日</td> </tr> <tr> <td>リスクマネジメント</td> <td>令和2年2月17日</td> </tr> <tr> <td>制度</td> <td>中止(感染症対策)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 伴走研修</p> <p>①実施日 令和元年7月10日</p> <p>場 所 地域支援センターそしん会議室</p> <p>参加者 新人常勤職員5人</p> <p>内 容 働いてみて気づいたこと</p> <p>リード 課長代理 笹森俊平</p> <p>②実施日 令和元年9月30日</p> <p>場 所 地域支援センターそしん会議室</p>	研修の種類	対象職種	基礎研修	全職種1年目の職員	伴走研修	常勤新採用職員	実践研修	全支援員	基幹研修	常勤職員対象	外部研修(事業所ごと)	全職種	課題別検討会	支援員7人(ダウン症への支援に関する研究)	内容	実施日	知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和元年5月20日	倫理・人権	令和元年6月18日	記録・接遇	令和元年7月16日	介護技術	令和元年9月2日	感染症とてんかん	令和元年10月2日	自閉症	令和元年11月5日	ダウン症・高齢化	令和2年1月16日	リスクマネジメント	令和2年2月17日	制度	中止(感染症対策)
研修の種類	対象職種																																			
基礎研修	全職種1年目の職員																																			
伴走研修	常勤新採用職員																																			
実践研修	全支援員																																			
基幹研修	常勤職員対象																																			
外部研修(事業所ごと)	全職種																																			
課題別検討会	支援員7人(ダウン症への支援に関する研究)																																			
内容	実施日																																			
知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和元年5月20日																																			
倫理・人権	令和元年6月18日																																			
記録・接遇	令和元年7月16日																																			
介護技術	令和元年9月2日																																			
感染症とてんかん	令和元年10月2日																																			
自閉症	令和元年11月5日																																			
ダウン症・高齢化	令和2年1月16日																																			
リスクマネジメント	令和2年2月17日																																			
制度	中止(感染症対策)																																			

		<p>参加者 新人常勤職員 5 人 内 容 共有・共同・仲間の重要性 リード 課長代理 笹森俊平</p> <p>③実施日 令和 2 年 1 月 30 日 場 所 地域支援センターそしん会議室 参加者 新人常勤職員 5 人 内 容 仕事力 リード 課長代理 笹森俊平</p> <p>(3) 実践研修</p> <p>実施予定 (新型コロナウイルス感染防止対策のため延期) 日 時 令和 2 年 3 月 27 日 18 時～20 時 場 所 素心学院地域交流室 参加者 素心会全職員 助言者 二宮町福祉保険課 配島氏 内 容 IT さんについて (素心学院) 構造化により個人の安定を図る (素心デイセンター) 質のいい暮らしを自分たちでつくる (地域支援センターそしん)</p> <p>(4) 基幹研修</p> <p>①実施日 平成 31 年 4 月 1 日 場 所 素心学院会議室 参加者 常勤職員 16 人 内 容 素心会中期計画について 講 師 理事長 萩原勝己</p> <p>②実施日 令和元年 9 月 14 日 場 所 地域支援センターそしん遊戯室 参加者 常勤職員 36 人 地域住民等 15 人 内 容 令和を生きる私たちの豊かさとは何かを探る 講 師 横浜地域福祉研究センター所長 佐塚玲子</p> <p>③実施日 令和元年 11 月 16 日 場 所 地域支援センターそしん遊戯室 参加者 常勤職員 36 人 地域機関等 2 人 内 容 これからの個別支援、地域支援のあり方 講 師 長野県自立支援協議会 会長 福岡寿氏</p> <p>④実施日 令和 2 年 2 月 1 日 場 所 地域支援センターそしん遊戯室 参加者 常勤職員 34 人 地域民生児童委員等 16 人 内 容 町の資源として更に発展する社会福祉法人となる</p>
--	--	--

		<p>講 師 社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷良成</p> <p>(5) 外部研修 事業所ごとに外部研修会への派遣を実施した。実績は各事業所の事業報告による。</p> <p>(6) 課題別研修 平成 27 年度「ダウン症検討会報告書」に基づき、検討。</p>
給食委員会	6	<p>1 委託業者が日京クリエイト株式会社に変更二年が経過したが、素心学院・素心デイセンターともに日京クリエイト(株)への評価は非常に高いものがある。 給食業務に関する事項の全般について、給食業務委託仕様書に定めるところに従い実施されているかどうか、当方と受託業者の職員により細部に至るまで検討し、より良質で適切な食事の提供に努めている。主として実施献立、形態食、食材料、提供方法、行事食、嗜好調査、保温食器の必要性、衛生管理等について検討している。</p> <p>2 食物アレルギー（甲殻類アレルギー等）の利用者に対して、調理指示書をもとに徹底した原因食品の除去及び調理作業による誤食、誤配の防止を行った。</p> <p>3 利用者の会にて、日常生活における食事について、正しい理解と望ましい食習慣を養い食に対する感謝と食べる喜びの大切さを理解してもらうためスライド（提供料理の写真）を用いて栄養教育を行っている（月 1 回）。</p> <p>4 見た目にもおいしく、形あるものを食べていただくため、ミキサー食対象者の外出及び行事時にやわらか食（業者より既製品を購入する）を提供した。</p> <p>5 トロミ剤使用者に適したトロミ剤を提供した。</p> <p>6 食事が少ししか食べられない利用者にマクトンオイル（エネルギー強化食品）を使用し、少量でも十分なエネルギーが摂取できるように工夫した。</p> <p>7 イベント食について 平成 28 年度から見た目にもおいしく形あるものを食べていただくため、ミキサー食対象者の料理の一部や弁当にやわらか食を取り入れてきたが、平成 29 年度からは業者よりやわらか食の既製品を購入し昼食を兼ねた外出にも参加できるようになった。 各担当者に当日提供する料理を事前に試食していただき、食材や味付けの確認を行った。</p>
衛生委員会 （労働安全衛生法、就業規則、衛生委員会規	会議 2 回覧 8	<p>この委員会は、職員の衛生管理に関し調査・研究・審議して衛生活動の推進・徹底を図ることを目的として、次の事業を実施した。</p> <p>・健康診断（35 歳未満の者も一般健診で全項目）</p>

<p>則)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ予防接種（事業所負担） ・インフルエンザ、ノロウイルス対策（各所に消毒液設置、手洗いうがいマスク等励行、素心学院は、前年度購入した空気清浄機のフル活用、拡散防止のための汚物処理キットの設置） ・各事業所で大磯町消防本部によるAED研修会を開催。 ・新人職員を対象に「感染症とてんかん」について基礎研修を実施。 ・産業医の指示に基づき、定期健康診断で要精検、要治療の職員に対し、再検査を勧めた結果、ほとんどの職員が受診し、適切な処置をとるに至った。 ・毎年開催される国際福祉機器展を見学し、特に腰痛対策に役立つ機器等の情報収集を図った（結果的に今回は導入に至らなかった）。 ・前年度に引き続き腰痛対策の一環として理学療法士を講師に招いて、腰痛体操を計画したが実施には至らなかった。 ・（社福）福利厚生センター「ソウェルクラブ」に法人負担で全職員（154人）加入し、福利厚生の充実を図った。 ・平成28年度からメンタルヘルス対策の一環としてストレスチェックが義務化となり、全職員を対象にストレスチェックを実施した。 対象者 150人 回答者 135人 回答率 90.0% <p>元年度</p> <p>ストレスが 高い 8.5% やや高い 21.5% 中程度 32.6% 低い 32.6% 評価不能 4.4%</p> <p>30年度</p> <p>ストレスが 高い 14.5% やや高い 17.4% 中程度 34.1% 低い 24.7% 評価不能 4.3%</p>
<p>環境整備委員会</p>	<p>5</p>	<p>毎月一回「環境整備の日」を設定し職員・利用者として学院内外の清掃を実施した。</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月31日（金）エアコン清掃・下駄箱・浴室・駐車場清掃 6月28日（金）駐車場枝はらい グランド草刈り 7月31日（水）各倉庫整理 ツバメの巣除去 8月31日（金）寮内清掃・各寮浴室 9月28日（月）よしず外し・換気扇掃除 10月30日（金）駐車場ロープ張り 11月29日（金）エアコン清掃 12月19日（木）大掃除各寮カーテン・窓拭きその他活動場所等 1月・2月 感染症対策のため中止
<p>芸術活動推進委員会</p>	<p>6</p>	<p>1 各事業所活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸

		<p>素心デイセンター 毎週木曜日 午前実施 地域支援センター 不定期に実施</p> <p>・ 絵画等の制作</p> <p>素心学院 絵画：毎月2回 第1・3週 午後実施 素心デイセンター 絵画：毎月2回 地域支援センター 毎月1回実施</p> <p>・ 書道</p> <p>素心デイセンター 毎月1回 月曜日 午後実施 地域支援センター 行事として実施</p> <p>2 第28回心創展の開催 開催日時：令和元年10月29日（火）～11月2日（土） 開催場所：平塚美術館 市民アートギャラリーB室 内容：利用者の作品展示（絵画・陶芸・書・オブジェ等） 来場者数：257人</p> <p>3 作品展への出展（応募）及び見学</p> <p>○第6回湘南Vividアート展 令和元年4月25日から5月4日展示 藤沢 蔵まえギャラリー 出展5名</p> <p>○一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会アールブリュ ット作品展（やまゆり生活サポート協会） 平成31年4月（入選者なし） 応募7名</p> <p>○「新人作家公募展 AFAF AWARDS2019」 令和元年7月（入選なし） 応募1名</p> <p>○第2回日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 令和元年9月（入選なし） 応募1名</p> <p>○第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会 展示期間令和元年10月16日から10月25日 応募5名</p> <p>○Vividアーティストセレクション展 令和元年10月30日から11月8日 1人選出：作品5点出展</p> <p>○「ビッグ幡 in 東大寺」 展示期間11月9日から11月17日 応募5名：1人入選（作品のデザインが幡に拡大プリントされ会</p>
--	--	---

		場の東大寺前に飾られた。) <ul style="list-style-type: none"> ○第11回神奈川県障害者文化・芸術祭 令和元年12月14・15日展示 出展6名
相互けん制委員会	8	<p>1 人権 擁護に関する研修会の実施 実施日 令和元年8月22日 場 所 素心学院地域交流室 参加者 全50人 内 容 意思決定支援について 講 師 赤平守氏（日本障害者協議会） 神奈川県障害サービス課</p> <p>2 職員行動規範の徹底と新規項目の検討 啓発ポスターの作成（毎月）</p> <p>3 法令順守と安全推進強化月間の取り組み 啓発ポスターの作成 各職員会議において呼びかけ</p>
防災対策委員会 (消防法令他)	5	<p>BCP 別冊 防災訓練マニュアルの見直し 大雨・降雪対応マニュアルの作成</p>

(5) 新型コロナウイルス感染防止対応

利用者・職員

- ①毎朝の体温・体調の確認 37度以上その他体調不良で静養 通院
- ②手洗い・うがいの励行
- ③同居者が陽性・濃厚接触者となった場合速やかに報告・相談
- ④職員はマスク着用 ⑤利用者も可能な限りマスク着用

外来者

- ①来訪時検温 37度以上で入室禁 ②入館表記載 ③入館エリアの限定
- ④マスク着用

感染予防対策

①感染症予防対策備品の備蓄

各拠点

サージカルマスク 2,000～3,000枚 除菌・手指消毒水 20L以上 ビニール手袋 2,000枚

法人全体

アイソレーションガウン 100以上 フェイスシールド 200以上 N95マスク 100以上

- ②手指消毒 利用者・職員における定時の手指消毒
- ③空気清浄 全活動室・食堂における空気清浄機の稼働及び定時換気
- ④情報収集と提供

- ⑤手すり・ドアノブ等の消毒、居室及び活動室等に消毒液を定時噴霧
- ⑥利用者通勤手段、外出範囲の制限
- ⑦施設行事、地域行事への参加、保護者会中止
- ⑧理事会、評議員会、内部職員会議の中止
- ⑨外部会議参加、訪問相談中止

2 素心学院

(1) 概要

平成31年度（令和元年度）は、利用者の加齢・基礎疾患に伴う長期入院者の増加がさらに一層著しく、入院者延べ人数23人、入院延べ日数905日をかぞえ、疾病による入院者・通院者対応に苦慮することとなった。あわせて、疾病にともなう逝去者が3名、継続的な医療処置を必要とする利用者の長期療養型病院への転院者4名の合わせて7名の退所者があり、5名（男性3名女性2名）の新規入所者があったにもかかわらず、定員充足にはいたらなかった。

しかし一方で、短期入所事業においては、相談事業所との連携により、若干ではあるものの新規の短期入所の受け入れが増加し、そのなかから1名の女性利用者を入所に繋げることができた。

そのような中、昨年度採用配属の3名の新任職員を含む職員の献身的な努力により、大きな事故もなく、一泊旅行等の大幅な見直しを実施し、入所利用者全員に遅滞なく例年のとおり提供することができた。

また11月からの徹底した感染症対策の実施で、季節性インフルエンザ罹患者を0にすることができた。

年度末2月中旬からは、新型コロナウイルスの感染症対策に、国・県の要請と社会情勢を鑑み、利用者・職員の安全安心を最優先に取り組んだ。

(2) 重点事項への取り組みについて

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
稼働率の維持	相談事業・素心デイセンターと連携し入所定員の確保に努めた。また短期入所利用者の入所意向聴取を実施した。	一定の入所利用者の確保は見たものの、高齢基礎疾患にともなう逝去・転院が相次ぎ、定員充足にはいたらなかった。	継続
医療的ケアの継続	事業所最高齢の女性利用者に胃ろうを実施した。また認定特定行為業務従事者研修に職員を派遣、資格取得者を増員した。	指導看護師の配置・安全委員会の設置・手技確認・研修への職員派遣等、定型が確立された。	終了 実施は継続
身体介護時の負担軽減	福祉機器の調査・研究を実施・国際福祉機器展への職員派遣を実施した。	あり方検討会・調整会議を中心に、利用者の現状に則した機器の導入について	継続

		検討し、電動介護ベッド・低床ベッドの配置を実施したが特殊浴槽については躯体の工事が必要なこともあり、検討が進まなかった。	
男子寮の美化	勤務として清掃業務職員を配置、利用者日中活動とあわせて環境美化に努めた。またあらたにケルヒャー掃除機器を追加購入し、使用を開始した。	一定の成果をみたが、日々のことであり、意識の継続が必要。	継続
施設行事の見直し	一泊旅行を見直し、3グループ月別に日帰り旅行を計画、実施した。	施設行事・外出支援について、見直しが完了した。	終了 利用者状況により随時見直しは継続
日課の見直し	日中支援職員を中心に、活動のグループ編成の見直しを実施、10月より新たなグループで活動を開始した。	利用者の現状に則した日課の見直しが完了した。	終了 利用者状況により随時見直しは継続
感染症対策のさらなる徹底	感染症マニュアルの見直しを実施した。また感染症対策期間の備品購入について、計画的に実施し、不足品が無いように管理を徹底した。	今年度、季節性インフルエンザの罹患者をゼロにすることができたが、さらなる拡充（備品・対応等）が必要である。	継続
地域行事への積極的参加	大磯町・虫窪地区の地域行事について、参加利用者・職員数を大幅に増やし、例年のすべての行事に参加をした。	定例のすべての地域行事に参加することができた。	継続
未病者対応について	ダウン症検討会・あり方検討会において事例を挙げ検討した。（考え方の整理）	現利用者の高齢化に伴う対応に追われ、成果を出すことがかなわなかった。	継続

3 素心デイセンター

(1) 生活介護事業

概要

生活1班（重度障害者支援）では園芸活動、事業所間の文書配達を中心に行い、生活2班では利用者の創作した作品の外部出展を積極的に行った。自主製品は事業所でのイベント時の販売の他、町の福祉イベントにも出店した。生活3班では個別対応を必要としていた利用者に対し、集団参加へのアプローチを行った。時間や場所、特性を考慮し他者と一緒に過ごす時間を設定して個別対応が必要な場面は減少している。また、新たな作業種としてエプロンや布巾の洗濯、花の水やりなどを取り入れ始めたが他の作業種の模索など課題を多く残している。

崩落した擁壁の復旧工事を昨年度より行っていたため、グラウンド内70メートルの立ち入り禁止区域の設定をした。復旧工事は5月下旬より開始し、ヒマラヤ杉5本の伐採を行い、その後擁壁の復旧、グラウンドの整備、グラウンド内に芝張りを行い9月末日に全ての工事が完了した。工事期間中、利用者の立ち入りなどのトラブルなく完工することができた。グラウンド内芝生エリアは約1カ月養生期間を設け、10月以降、イベント会場としての使用、日中活動中の余暇活動の場所として活用した。また、水撒き、草取りなど芝生の管理に関わる作業は利用者の新たな作業種として取り組んでいる。

インフルエンザ感染症対策として例年と同じく10月より感染症予防マニュアルに基づき、除菌水の散布、手洗いうがいの励行、室内換気、加湿器の使用などを行った。2月末までインフルエンザ罹患者は職員2名だけであったが、3月2日よりインフルエンザA型の罹患者が多発し、翌週には利用者職員合わせ計12名の罹患者が発生した。罹患者が10名を超えたため保健所へ報告を行った。

昨年度、素心学院へ入所された利用者が4名、ご家庭の都合により退所される方が1名いた。令和2年度の新規利用者は2名であった。稼働率も大幅に下がっており、新規利用者を増やすことが最重要課題である。

(2) 就労継続支援B型事業

概要

パン作業は大磯町役場の福祉ショップ「あおぼと」、二宮町町民センターのともしびショップ「なのはな」、特別養護老人ホーム二宮喜楽園及び大磯喜楽園で食パン・菓子パン・惣菜パン・塩パンを販売しており毎回完売をしている。近隣地域へは虫窪地区文化祭、石神台でのマルシェ、横溝記念まつりの出店も行い、いずれも好評であった。パン室移転に伴い、看板商品の開発、販路の拡大は重要課題である。

清掃作業を行っていた特別養護老人ホームこゆるぎの里は5月に社会福祉法人恒道会から社会福祉法人豊友会に法人が代わり新たに契約を結ぶこととなった。名称もこゆるぎ喜楽園と変更になった。12月に先方によるインフルエンザ感染予防のため一時休止、3月はコロナウィルス感染症予防のため中止となっており、中止期間は現在も続いている。洗濯作業は擁壁復旧工事が進み安全が確保された8月より再開している。引き取り、返却ともに擁壁の崩落前と同様に作業することができた。

利用者の稼働率は毎月平均60%台であり新規利用者の確保は重要課題である。そのためには魅力ある就労継続支援事業の形成が責務だといえる。

(3) 重点事項への取り組み

重点事項 (計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新規利用者の積極的な受け入れ	事業所説明会や養護学校実習生の受け入れ	生活介護2名、就労継続支援B型3名新規利用者を受け入れたが、うち3名は法人内グループホームの利用者であった。	継続
就労継続支援B型事業 a パン作業室の学院からの移転と整備 b 就労継続支援B型事業の充実	a 移転先の旧・支援センター職員室の改修工事のレイアウト・見積もり書を作成や購入器具を選定 b パンの看板商品開発の検討や新たな販路開拓	a 擁壁・グラウンド整備工事のために計画を立てるのが遅れた。迅速に計画を実践する力が重要。 b 作業種目の集約・魅力溢れる就労継続支援事業の形成など課題は多い。また、看板商品の開発や販路開拓に至っても十分ではない。	a、bともに継続
生活介護事業 a 日中活動の充実 b 自閉症支援の検討と実践	a グラウンドを活用した芝刈りなどの作業・園芸作業への取り組み b 個別対応を必要としていた利用者に対し、集団参加へのアプローチ	a グラウンドを活用した作業に積極的に取り組み、多くの利用者の活動の場とする必要がある。 b 他の作業種の模索など課題を多く残している。	a、bともに継続
地域への貢献 a グラウンドスペースの開放 b 地域行事への参加、協力	a 納涼祭や各事業所ごとのイベントの開催 b 虫窪地区文化祭、石神台でのマルシェ、横溝記念まつりの出店	a 地域への貢献としては十分だとはいえない。 b 徐々に参加・協力の枠は増えている。	a、bともに継続

4 地域支援センターそしん

(1) 共同生活援助（さざんかホーム）

ア 概要

昭和 56 年から平成元年までに整備された当時の利用者像は一般企業等に就労し生活面においても比較的自立度の高い人たちであった。それから 30 年以上が経過し、利用者の高齢化による病弱者、重度者の増加が顕著である。障害福祉サービスでは重度者の暮らす場として入所施設があるが、制度的にも 65 歳以上の者は介護保険サービスへの移動を最優先にという市町村の意向が強まり、本人の状態像や介助度、支援体制とすり合わせたサービス利用からはどんどん遠くなっている現状がある。また、障害福祉サービスにおける住所地特例が介護保険では不適用となること等とも関係し、入所施設へも介護保険施設へも移動しにくい状況をも生みだしている。さざんかホームの高齢化、重度化は進み続けている。

そのような中、31年度も以下の対応を重点的に行った

①利用者の高齢化・重度化に伴う環境整備及び支援体制について

- ・ 2 階居室から 1 階への移動
- ・ 歩行困難者への見守り及び移動支援の強化
- ・ 支援センターにおける入浴サービス
- ・ 腎臓病食・カロリー制限食・ペースト食・アレルギー除去食への対応
- ・ 看護師によるインスリン自己注射支援
- ・ インフルエンザ・新型コロナウイルス等感染症対策の強化（インフルエンザ罹患者 1 人）

②防災対策

- ・ 消防法改正への対応
- ・ 専門業者による消防設備点検

③ホームスタッフの確保・育成、職員研修体制の確立

- ・ ホームページ、広告等による積極的な募集（効果は得られていない）
- ・ スタッフ会議を利用した報告・連絡・相談の徹底 → 振り返り・検証

④建物の老朽化改善について

- ・ 高齢者への対応、65 歳問題等中期計画において根本的な方向性の確認、早急な整備を実現する（グループホームのありかた検討プロジェクトにおいても話し合っていく）

イ 重点事項への取り組み <グループホーム>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新規利用者の獲得	関係機関より情報収集	在籍利用者の状況・住環境を総合的に判断し欠員の補充には至っていない	継続
ホームスタッフの確保・育成	求人広告等での募集 生活支援員の研修	世話人の高齢化もあり採用するも退職数に追い付かない	継続

利用者の高齢・重度化に伴う環境整備等および支援体制について	ADL に応じ住空間の設定 福祉用具の導入（低床ベッド） 離床センサー・ナースコール等 緊急連絡マニュアルの整備	今できる最大の配慮・手立ては行っており、現状維持できている。	継続
-------------------------------	---	--------------------------------	----

(2) 相談支援

ア 概要

相談支援事業は、引き続き大磯町基幹相談支援事業、二宮町基幹相談支援事業の受託と障害児相談及びサービス等利用計画・障害支援区分認定調査を実施した。継続的に、相談支援体制の整備と有資格者の確保及び育成を重点項目に挙げ、東奔西走する毎日であった。

相談件数の増大、相談内容の複雑化の中で相談員数、対応時間、社会資源の不足感は高まっている。地域に特定相談支援事業所が増えた状況下において地域事情の共有、制度における共通認識等話を交える場を持つが、基幹相談支援センターとしてのコントロールタワーの役割は十分果たせていない。このことに我々は引き続き量的、質的な対応力を高められるよう根本的な地域の相談支援体制の在り方について両町とも継続的に検討することとする。

イ 重点事項への取り組み <相談>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
今後の地域における相談支援体制に関する検討	事例検討および関係者での情報共有の機会を定期的に設け両町担当者との会議も継続的に行う	定期的な意見交換や情報共有の機会は有効であり、課題については解決に向けシステムの構築等につながっている	継続
有資格者の確保および育成	実務経験等該当する人材については研修を受講 現従事者については更新の手続きを確実にを行う	研修・更新手続きについては滞りなく行っているが新たに相談に従事する専門員の確保には至っていない	継続

(3) 児童発達支援（未就学）

ア 概要

利用数は、月を追うごとに増加傾向にあり定員である10名の名前が毎曜日並ぶようになった。情緒の安定を図る個別支援計画の作成し保護者や併用する保育園等の職員から一定の成果・評価を得ている。子どもの将来にわたって情緒の安定が重要なテーマであることは確かだ

が同時に言葉や基本的な生活動作獲得へのニーズは高く、集団への適応や心身の健やかな成長へのアプローチが求められてきている。また、一般的にも年齢によって発達度合いが顕著に異なる時期であることに加え、多様な障害児童を受け入れる中、グループ分け等により療育体制を整備し安全・安心な環境を提供していきっている。また、重点的な取り組みとして掲げていた給食対応は平成31年度4月から開始している。

イ 重点事項への取り組み <児童発達>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの導入検討	平成31年4月より提供	幼児食メニューとしての評価 嗜好調査の実施については課題が残る	完了・継続

(4) 放課後等デイサービス（小学1年から高校3年）

ア 概要

放課後等デイサービスのあり方が問われる中、単にお預かりや遊びの時間だけにならないよう、生活力の向上及びソーシャルスキルトレーニングを重点課題に挙げ取り組んだ。お茶やおやつの準備・片付け、清掃、洗濯等身の回りへの意識や役割意識を促す取り組み、また農作業や買い物・調理等を通し手段的日常生活動作に関する機会を提供した。放課後等デイサービスは、基本的に利用日数の制限かつ下校時間による制約が生じ、障害状況もまちまちの中での活動設定に難しさがある。しかし、成長段階で社会への出入り口に立ち、切れ目ない関係性の中で本人なりのコミュニティーを築くことができるよう支援を続けてきている。

イ 重点事項への取り組み <放課後等デイサービス>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
ソーシャルスキルトレーニングの研究・実施	役割意識やルール、約束などの決まり事をゲームの中に取り入れたり小集団でのグループワークを行った	時間的な制約の中でプログラムとしての積み上げに至らず断続的実施となったため計画的に継続をしていく	継続

(5) 居宅介護・移動支援

ア 概要

居宅介護事業の利用については、介護保険での対応のニーズがほとんどであり、利用実績はありません。障害分野での移動支援事業については例年同様、余暇支援や社会参加の機会として多くの利用希望をいただきました。利用者が65歳を境に障害福祉サービスから介護保険事業に移行したことによるものである。今後もこの傾向は続くものと考えられる。重点事項である業務マニュアルについては整備したが、もう一方の課題である職員の増員には至らなかった。職員は定着しているが、よりニーズに応じていくには、マンパワーの確保・

育成・定着は継続的な課題である。

イ 重点事項への取り組み <居宅介護・移動支援>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
職員の確保・育成に努めサービス提供体制を拡充・強化する業務マニュアルの作成	職員については、有資格者・経験者の求人を募る。サービス提供における配慮事項等をマニュアル化する	マンツーマンの事業であるためニーズに応えきれず育成にもつながっていない	継続

(6) 自立支援協議会

ア 概要

引き続き二宮町・大磯町障害者自立支援協議会事務局を受託した。事業計画では協議会は年2回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の関係で3月の開催を中止した。部会は両町別に開催している拡大部会も含めて計5回開催し、研修会については2回開催した。昨年度の部会及び協議会にて意見交換を行う中で、福祉サービス事業所・関連機関の参加者より安定した事業の継続に必要な人材の確保・育成と、一法人あるいは一事業所では解決が困難な複雑な事業運営上の課題に直面しているとの共通した意見を受け、今年度は地域連携と協働というテーマを基に意見交換と情報共有を行った。研修会は、11月に地域内の福祉サービス事業所と関連機関を対象に相談支援の展開も視野に入れた事例検討会を実施し、1月に湘南西部保健福祉圏域障害者差別解消支援地域協議会と共催し、「湘南西部圏域・差別解消フォーラム2020」を開催した。

(7) 生活介護

ア 概要

高齢者や重度重複障害者を中心に受け入れる中、事故も無く安全に過ごすことができた。新たに5人の利用者を迎え、陶芸・園芸・創作活動、運動、入浴等の日中活動に取り組むと共に、初めて単独での一泊旅行を実施することができた。また週1回理学療法士を配置することとし、個別の身体状況を踏まえ日常動作の視点から機能低下防止、筋力維持について専門的なアドバイスを受けられるようになった。

利用者のほとんどは高齢または難病、重度重複障害により医療的な配慮が欠かせない。看護師の役割は大きく重要な存在となっている。来年度3人の新規利用者を迎えることとなり、延べ登録者数は定員の20人を超えた。しかし医療面、体力面から毎日通うことが難しい人たちの割合は多く、今後ますます医療的なサポートが重要となっていく。